

平成22年度 TTC情報通信技術賞・功労賞

1 情報通信技術賞 総務大臣表彰

(1) 「デジタルテレビ伝送の研究開発及び標準化活動への貢献」

松本 修一 殿 (株式会社KDDI研究所)

ハイビジョン及び多チャンネルテレビの国際デジタル中継実現のための実用コーデックの開発をはじめ、デジタルテレビ伝送のための高能率符号化技術・客観映像品質評価技術に関する先駆的研究及び実用化に多大な貢献をした。国際標準化活動に関しては、ITU-T SG9のラポータを1期4年更に副議長を2期8年務め、デジタルテレビ伝送とCATVに関わる数多くの勧告の策定を進めた。国内においては、総務省電気通信技術審議会ケーブル番組伝送委員会の主査を務め、CATVを含むデジタルテレビ伝送の標準化の推進に指導的役割を果たしている。更に、TTCの標準化会議の副議長・議長を合計4年間務め、国内標準化の推進を図るとともに、我が国で開催されたGSC12全体会合の議長を務め、世界の標準化機関との連携に大いに貢献した。

(2) 「マルチメディア分野における標準化の推進及び日本の標準化活動への貢献」

山下 孚 殿 (元 財団法人日本ITU協会)

CCITT SG XV及びITU-T SG15の副議長を4期16年務め、マルチメディアに関わる勧告枠組の確立やMPEG2等の勧告策定に多大な貢献をした。また、JCG/AVMMS議長としてITUにおけるマルチメディア研究のあり方に関する提言をとりまとめ、この提言に基づいてWTS A96においてITU-T SG16が創設された。国内の標準化活動に関しては、TTCのアナログ静止画映像通信方式分科会の委員長を務め、JJ標準の策定を推進するとともに、アジア・太平洋電気通信標準化研究委員会の初代委員長としてアジア・太平洋における電気通信標準化体制の在り方の検討を開始し、これが後にASTAP設立に繋がった。更に、光アクセスシステムの仕様を作成する業界団体FSANの標準化活動の支援を行うなど、日本の国際標準化活動の発展に大いに貢献した。

2 情報通信技術賞 TTC会長表彰

(1) 「次世代ホームネットワークに関する標準化の推進及び情報通信機器の相互接続性確保の推進にかかわる功績」

沖電気工業株式会社 高呂 賢治 殿

(2) 「TTCのアジア太平洋地域における国際連携活動の創成にかかわる功績」

元 富士通株式会社 小森 秀夫 殿

(3) 「マルチメディア放送に関する研究開発及びその国際標準の策定にかかわる功績」

日本放送協会 武智 秀 殿

(4) 「TTCの3GPP及びITU-Tへのコアネットワーク系に関する標準化活動にかかわる功績」

ノキア シーメンス ネットワークス株式会社 若林 清久 殿

3 功 勞 賞

- (1) 「網間物理インタフェースに関する標準化の推進にかかわる功績」
富士通テレコムネットワークス株式会社 小野 威 殿
- (2) 「網間論理インタフェースに関する標準化の推進にかかわる功績」
日本電信電話株式会社 片岡 智由 殿
- (3) 「3 G P P 関連のネットワークに関する標準化の推進にかかわる功績」
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 奥水 敬 殿
- (4) 「ホームネットワークシステムの他団体活動調査にかかわる功績」
日本電気株式会社 鹿田 實 殿
- (5) 「NGNのアップストリームによる標準化活動にかかわる功績」
ソフトバンクテレコム株式会社 銭 宏皓 殿
- (6) 「I P 電話通話品質評価法に関する標準化活動にかかわる功績」
フュージョン・コミュニケーションズ株式会社 田村 初 殿
- (7) 「V o I P の相互接続インタフェースに関する標準化活動にかかわる功績」
株式会社タムラ製作所 新美 篤司 殿
- (8) 「マルチメディアシステムに関する標準化活動にかかわる功績」
日本電信電話株式会社 西川 嘉樹 殿
- (9) 「I C T と気候変動に関するアップストリーム活動の推進にかかわる功績」
富士通株式会社 端谷 隆文 殿
- (10) 「メタリック加入者線伝送システムに関する標準化の推進にかかわる功績」
西日本電信電話株式会社 藤川 就一 殿
- (11) 「企業網 S I P 関連インタフェースに関する標準化の推進にかかわる功績」
日本電気株式会社 水口 学 殿
- (12) 「I P T V 関連のアップストリーム活動の推進にかかわる功績」
ソフトバンク B B 株式会社 山西 正人 殿